

スポーツ

川越

発行 川越市体育協会



第71回全国高校野球選手権大会 於甲子園 平成元年8月

婦人スポーツ雑感

川越市婦人スポーツ団体連絡協議会

会長 箕輪絹子

生活文化の向上に伴い、日常生活の中の運動不足も又、同時に進行しているのではないだろうか。これを解消するために高い料金を支払い、スポーツに親しんでいる人も多いと思います。

近年「健康体力づくり」を目的としたスポーツ活動は、婦人層にも著しい増加がみられます。これは、スポーツを生活の一部としてとらえているからではないでしょうか。折しも昨年九月、国では保健体育審議会答申が出され、二十一世紀に向けたスポーツ振興の基本的方向が打ち出されました。その中で、生涯スポーツの重要性がますます高まることが考えられ、身体的活動と共に心の快感を伴うスポーツが、より身近なものになると思われまます。

川越市では、体育協会の専門委員会として昭和六十年七月、婦人スポーツ団体連絡協議会(十二の団体により構成)が結成され五年目を迎えています。この協議会は、婦人スポーツの集いをメイン行事とし、各種講習会や研修会等を開催し、婦人スポーツの振興を図ると共に、健康で明るく豊かな市民生活を目指しています。

特に「婦人スポーツの集い」で本市に初めて紹介した「いつでも・どこでも・誰にでも」というキャッチフレーズのもと、実に理にかなった体系をもつ二村式健康リズム体操は、急速に高齢化社会を迎えつつある現在、年齢に関係なく活用できることから、多くの方々に愛好され市民体育館及び公民館活動の中で定着しつつあります。時代の変遷と共に女性も社会的に認められ、あらゆる分野での活躍はめざましいものがあります。婦人スポーツも又しかり。何をすべきか・どうあるべきかと、改めて今後の役割の重大さを痛感する次第です。



川越ウォークソン大会
シンボルマーク

第 8 回川越ウォークソン大会

第 8 回川越ウォークソン大会が十一月三日(文化の日)澄みきった青空の下、川越市・川越市教育委員会・毎日新聞社・日本ウォークソン連盟の主催、川越市体育協会・川越市体育指導委員連絡協議会・川越市陸上競技会各団体による主管で盛大に開催されました。

「正しく・美しく・速く歩こう」を基本テーマに、市内・県内は、もちろん関東各都県、遠くは、和歌山県に至るまで、二千五十八名のウォーカーが一同に勢揃い。午前九時、川合市長のスタート合図により、各種目ごとに次々スタートし、参加者全員が無事完歩されました。



なお、上位入賞者及び各賞受賞者は、次のとおりです。

【スタイル賞】

◎10 km 男子(一七一名)

・細野俊行・小川清一郎・関口敏夫・横川照佳・又重英一・齊木六郎

◎10 km 女子(一〇九名)

・須藤則子・山内敦子・上野恭子

◎20 km 男子(三一一名)

- 一位 小金山光雄 2 時間 00 分 51 秒
- 二位 大木義夫 2 時間 02 分 07 秒
- 三位 鈴木基次 2 時間 03 分 07 秒
- 四位 松尾武幸 2 時間 07 分 28 秒
- 五位 有光文典 2 時間 16 分 24 秒
- 六位 北村富弘 2 時間 21 分 53 秒
- 七位 吉田 栄 2 時間 25 分 48 秒
- 八位 樋口伸男 2 時間 26 分 23 秒
- 九位 小野寺敏男 2 時間 26 分 56 秒
- 十位 紅谷 均 2 時間 28 分 12 秒

・月坂信子・上原綾子・茂木静江

◎5 km、45、59 才男子(五一一名)

・和田 浩・谷口守政・加藤良雄・石塚賢次・衛藤正直・栗原忠一

◎5 km、45、59 才女子(一一五名)

・藤田静子・山口智寿子・岡田茂代・五十嵐広子・伊藤栄子・植松せつ子

◎男子

◎5 km、60 才以上男子(六四名)

・柴田定雄・沼田市造・高地金司・山田茂雄・鈴木喜三郎・宮岡恒雄

◎女子

◎5 km、60 才以上女子(二八名)

・志賀シズ・高瀬 公・井上トモ・瀬戸信子・水野妙子・石井芳江・奥田秀一・綾織 健・田中 剛・羽柴寛典・月岡 賢・中沢 巳

◎女子

◎5 km、小学男子(二七八名)

・千葉慶子・相田知美・金子 綾・小泉かおり・筋野亜矢子・西沢啓子

◎男子

◎10 km、中学男子(一一〇名)

・飯野芳彦・栗林 亮・荷田智之・山下智和・長谷川琢哉・伊藤秀之

◎男子

◎10 km、中学女子(六一一名)

・斉藤朱美・古賀裕美子・関根秀美・山下直子・矢本美樹・垂見さおり

◎男子

◎5 km、親子(三九二組八〇五名)

・荻野和久・佳子親子
・井田孝広・貴美親子

第 8 回川越ウォークソン大会
実行委員会

※シルバール賞は、本大会より八十才以上の方全員に贈られます。但し、八十才以上の方がいない場合は、最高年齢者となります。

【シルバール賞】

◎男子
・平田伊佐蔵(八十六才)
・窪田長治(八十五才)
・田代正巳(八十四才)
・塚田武雄(八十二才)
・中野繁之助(八十一才)
・中村源次(八十才)



この大会は、人間の生活の中で最も基本的な動作である、歩くことを正しく認識していただくことにより、健康で豊かな社会生活を営む基礎づくりを目的としています。

今年も、昨年(第七回大会)に比べ参加者が大幅に増えて、乳児から八十六才の高齢者まで、幅広い年齢層の参加があり大変盛り上がりしました。

腕を大きく振り、新鮮な空気を胸いっぱい吸いこんで歩くウォークソン大会が今後益々素晴らしい大会になりますよう願っています。

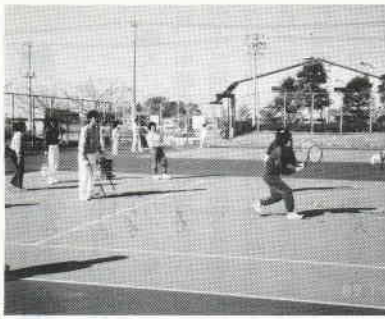
また、市民の皆様のご協力並びに関係各役員の絶大なるご支援・ご協力の賜と厚く御礼申し上げます。

スポーツ教室

平成元年度スポーツ教室が、川越市体育協会加盟団体の協力により、一般4教室・婦人4教室・親子1教室・少年少女5教室計14教室六七四名の参加により開催されました。

この教室は、市民の皆さんがスポーツを楽しみ、心身の健全な発達と明るく豊かな生活を営むことを目的としています。

スポーツに親しむ機会をつくり、必要な知識と技能を修得していただくことによりスポーツグループの育成等、生涯スポーツの一助に役立てれば幸いと思います。各教室の参加者数は、次のとおりです。



卓球	32人	ボウリング	52人
ソフトバレー	29人	親子水泳	13人
パウンドテニス	7人	Jr.水泳1	48人
スケート	47人	Jr.水泳2	39人
軟式テニス	37人	Jr.体操	15人
硬式テニス	50人	Jr.スキー	106人
婦人水泳	32人	スケート	167人

*教室参加者の声

●スポーツをしたいといつも思っていたけれど、なかなか機会がなくて、このような教室があることをもつと早く知りたかった。

(45才主婦)

●なにしろ多くの友達ができたことがよかった。教室の卒業生と今でもサークルをつくり、楽しく活動しています。(34才主婦)

●運動をあまりしてこなかった私に、まさか氷の上に立てるとは。それどころか滑れたんですよ。だけど最初は参加することに、抵抗がありました。今では参加して本当によかったと思っています。

(42才男性)

今後、より幅広い年齢層を対象として教室を開催し、市民の健康体力づくりに役立っていただけると考えています。



樹氷の思い出

第40回 市民スキー講習会

「キリッ」と引き締まった空気の中に、雄大に聳え立つモンスターの樹氷。この樹氷で有名な、山形県蔵王温泉スキー場において、



スポーツ講演会に参加して

運動とケガのしくみ

三月二十三日、市役所7AB会議室でスポーツ講演会が開催されました。講師は、日本女子体育大学講師兼チーフトレーナーの成瀬臣彦先生でした。

先生は、いろいろな経験を通して、独学で体操療法を学び出しました。頭が痛い、肩がこる、めまいがするなどの症状は、体に歪みがあるから起こるのであり、操体とは、この体の歪みを元通りに整復することです。先生はその豊富な体験の中から、日常生活によく起こる障害について、実技

を通しユーモアたっぷりに講演しました。肩に障害のある参加者もその場で治してしまう療法に思わず参加者の感嘆の声が上がりました。「体」とは本人と書く。障害を治すのは、自分自身であるという言葉がとても印象的でした。



二月一日(木)から四日(日)までの四日間、教育委員会主催・スキー連盟主管で、第40回市民スキー講習会が開催されました。

参加者一〇三名は、一日午後十一時に川越駅西口を三台のバスにて、一路蔵王に向けて出発いたしました。

蔵王といえば、気温が低く、太陽を見ることはまれで、たいへん天気には、恵まれないイメージがある所でしたが、今回の講習会においては、三日間とも晴天に恵まれ、絶好のコンディションの中で

の講習及び技能検定となりました。参加者は、全日本公認指導員十二名とともに思い思いのシュブールをゲレンデいっぱいに描いていました。

この講習会が開催されるにあたっては、蔵王温泉観光協会・大平ホテル並びに、ご指導いただいた川越市スキー連盟関係各位に、厚くお礼申し上げます。来シーズン第41回講習会には、より多くの方に人口二千万人といわれるスキーを楽しんでいただけますようお願いしております。

第42回川越市民体育祭総合開会式

― 体育功労者・優秀選手表彰 ―

晴天に恵まれた十月十日体育の日、川越市市民体育館において第四十二回市民体育祭総合開会式並びに体育功労者及び優秀選手表彰式が、四二九名の参加を得て盛大に開催されました。

市長・教育長はじめ来賓多数の臨席のもと、定刻十時に選手入場。スキー連盟代表の選手宣誓のあと、平成元年度体育功労者及び優秀選手表彰式が行われました。

体育功労賞は、体育・スポーツの振興に著しく功績のあった方に贈られ、又優秀選手賞は小・中学生の県大会の優勝者及び関東大会以上の大会に出場した選手に、そして高校・大学・一般については全国大会以上の大会に出場した選手に贈られます。

今年度の体育功労賞は次の五名の方が受賞されました。

- 川崎 勇次 (四十八才)
- バレーボール連盟
- 牧野 保代 (四十四才)
- 卓球連盟

- 小高 秀雄 (三十九才)
- サッカー協会

- 大久保 恒雄 (六十五才)
- 弓道連盟

- 富田 三千彦 (三十九才)
- 小学校体育連盟

また、優秀選手賞は合計二二四名の選手が受賞されました。団体別受賞者数は次のとおりです。

スポーツ少年団(十六名)・中学校体育連盟(二十五名)・卓球連盟(二名)・バスケットボール連盟(十六名)・サッカー協会(二一名)・柔道連盟(四名)・剣道連盟(一名)・スキー連盟(四名)・スケート連盟(十七名)・少林寺拳法協会(三十名)・レクリエーション協会(パウンドテニス連盟四名)・ボウリング連盟(一名)。

受賞された方々、そしてスポーツ愛好家の今後の活躍を期待します。



体育功労賞を受賞して

栄誉ある体育功労賞をいただきありがとうございました。

文部省の社会体育指導者資格付与制度も発足。今後共社会体育振興に役立てばと思っています。

(川崎 勇次)

このたびの受賞は、皆様方に支えられての賜物と感謝しております。今後も市のスポーツ活動が一層活発になるよう卓球を通じて皆様方と共に精進したいと思います。

(牧野 保代)

数多くの人たちの中から名誉ある賞を受賞し光栄と感じました。過去には苦しいことも多々ありましたが、今後も名誉に恥じないよう頑張りたいと思います。

(小高 秀雄)

弓道を始めて早三十年、射技の研修心身の鍛練と奥義探究に努めてきたとき受賞の榮譽に接し、益々研鑽努力せねばと心新たに日々を誓って邁進しています。

(大久保 恒雄)

このたびの受賞に際しまして、関係者各位に厚く感謝申し上げます。未熟ではありますが、今後も小学校体育の発展のために努力してまいります。

(富田 三千彦)

全国大会に出場して

あこがれの甲子園

川商野球部監督 円谷宜之

平成元年夏、甲子園に「七十一」と書かれた入場門がある。

今、そのゲートをくぐり甲子園の土を踏む。

大勢の先輩方が夢を見たあこがれの甲子園に、私にとって教え子でもあり、後輩でもある素晴らしい選手達。その力強い足どりの一歩一歩が私の眼をうるませる。

そして、その足どりが甲子園までの熱く苦しい日々を思い出させる。監督生活十年で甲子園へ行く」と自分に言い聞かせて、四十二年九月、晴れて母校の監督になる。「下手でもよい。最後まで頑張ろう」とノックの雨を降らす。

ひたむきさと粘りを目標に指導する。四十九年西関東大会、五十三年、五十五年、五十七年、六十年にベスト四に進出するものの甲子園出場ならず、「甲子園が見え始めた時、甲子園は遠くなる」という言葉がこの時程強く感じたことはない。

自分で誓った十年も過ぎ、二十二年目の夏、大会前は不安でもっと時間が欲しいという思いにかられる。時は待たず、バレーボール。二回戦で岡崎投手が四十一年ぶりに完全試合を達成。

チームは着実に力を発揮し、ベスト四に駒を進める。

相手は優勝候補・川口工、この時を逃したら甲子園への道は断たれてしまう。打倒川口工の闘志は燃えている。まさに今ぞ天の時なり。天の時。灼熱の西武球場。打倒川口工」やっとならんと甲子園の三文字が見えてきた。決勝も伝統の力を發揮して勝ち、ついに宿願を果たした。私は選手の手で宙を舞った。今行進する彼等の手で――。先輩達の汗と涙は報われたのだ。



青春の熱い手で掴んだこの甲子園。あこがれの甲子園で選手達はこの土の上で青春のすべてを炎と燃やしたのではない。精一杯戦った雨のグラウンドの土を詰める選手達は何を思っているのだろう。

負けた甲子園も素晴らしい。甲子園にやさしさを見た。またいつの日か甲子園へ行きたい。

おわりに、市・関係各位のお力添えに対し厚くお礼申し上げます。



卓球の暗いイメージチェンジを図り、昨年の大会より濃緑の台をピンクやブルーに変えボールもオ

第十二回全国レディース卓球大会に出場して
卓球連盟 須賀 郁子



国民体育大会に出場して
スケート連盟 須賀 紀子
第45回国民体育大会冬期大会スケート競技会は若手県盛岡市の県営スケート場で行われました。
成年女子Aで同じ種目に出場した他県の選手は、トップレベルの大学生や実業団の選手ばかりで、レスでは実力の差を見せつけられてしまいました。しかし、たくさんの友達ができました。その人達に逢えるように、またこれから迎えるシーズンオフのトレーニングに一生懸命励みたいと思います。



陸上競技場メインスタンド完成間近
体育協会の強い願望であった川越運動公園内の陸上競技場の建設が進み、メインスタンドの完成が間近になりました。また、

レンジ色にしていますが、本大会だけなので慣れるのに大変でした。予選リーグは通過できましたが、決勝トーナメントで優勝したペアと接戦の末一対二で敗れました。
全日本選手権に出場して
バウンドテニス連盟
上加治三千代
熱気と活気に満ち溢れた第七回全日本選手権大会。厳しい県大会を勝ち抜いて川越から四人もの出場は、クラブ始まって以来のことです。練習では味わえない極限の集中力、戦った後の開放感、選手

盛土スタンドの工事も進行中で平成四年度開場に向け、建設に拍車がかかりそうです。
メインスタンドの概要は、
○長さ約155m、高さ約8.8mで、扇状をした鉄筋三階、貴賓席を含む四五〇〇の観客席
○建物内部の施設
一階：事務室、医務室、トレーニング室、シャワー完備の男女別更衣室、約80人程度収容できる会議室、男女別トイレ。
二階：放送室、貴賓室、記者控室、男女別トイレ等。
となつています。すばらしい施設が完成しそうです。

及び関係者参加の交歓パーティー。それぞれにバウンドテニスをやってて良かったとの思いを深くしました。今後、一層の普及に体力の続く限り頑張りたいと思います。



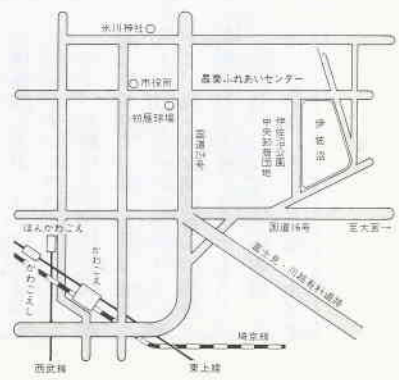
農業ふれあいセンター
「くつろぎとふれあいの場」
平成元年十二月一日農業ふれあいセンターがオープンしました。
この施設の中で、心身ともにリフレッシュできる多目的ホール(体育館)がありますので紹介します。
(場 所)
伊佐沼のすぐ北側
(施設概要)
*多目的ホール
○バレーボールコート 一面
○パドミントンコート 二面
○卓球台 八台
放送設備も完備しており、多目的に利用できます。個人利用も可。
(付帯施設・設備)
*駐車場は五〇台程度
*男女シャワー室完備
(申 込)
利用日の前月初日から、同センターへ。二六一六五五一

団体使用料

時間区分	午前	午後	夜 間
	午前9時 正 午	午後1時 午後5時	午後5時30分 午後9時
研修室兼視聴覚室	1,330円	1,750円	2,060円
会 議 室	610	820	1,030
農 産 加 工 室	610	820	1,030
和 室	820	1,130	1,330
多目的 ホール	全面利用	2,470	3,290
	片面利用	1,230	1,640
放送設備一式	1,230	1,640	1,640

個人使用料 (農産加工室及び多目的ホールに限る)

一 般	2 時 間	1 0 0 円
小・中学生	2 時 間	5 0 円



ソフトボール協会

本年、協会創設十五周年を迎えたソフトボール協会。昭和四十五年頃、壮年の体力向上・健康の増進を目的に、教育委員会・体育指導委員の熱意により、人集め・チーム集めから始まりました。当時は日本が高度経済成長の真っただ中、企業戦士は休日も惜しんで仕事に熱中している時代でした。

しかし、関係者の並々ならぬ努力により、しだいにソフトボールが各自治会に浸透してまいりました。昭和五十二年に体育協会に加盟しましたが、今では男女で二百三十チーム・約五千人の会員を擁する体育協会最大の団体に育ってまいりました。

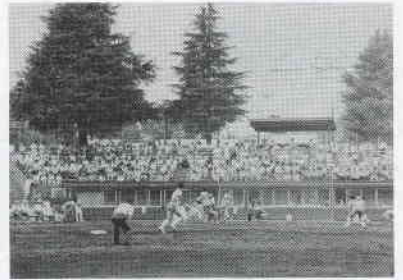
当協会が主催(主管)する行事

- ・春季大会(男女)
- ・市民体育祭(秋季大会男女)
- ・チャンピオン大会(男女)
- ・中学生新人戦(女子)

一方、審判・技術・記録等の講習会を開催し、会員の技術の向上・競技の発展を図っています。

また、関東大学選手権・ジャパンカップ・日中親善ソフトボールなど、国内の一流大会はもちろん国際大会の開催都市として、技術の習得・大会運営等学ぶことができました。

今後は組織の一層の充実と会員



の親睦・青少年の健全育成に意を用いていきたいと思えます。皆様の一層のご協力をお願いします。

団体

だより

体操連盟

川越市体操連盟は、体操競技経豊富なる人、子供が好きで一緒に遊べる人、新しいことに挑戦できる人、老若男女問わずの人が集まっています。毎週土曜日は市民体育館で一般を対象に、ストレッチ体操と自然運動を一時三〇分から三時まで。三時から五時までは体少年団員百名ほど。リーダー(中学生・高校生)がマット運動・トランポリン・跳び箱・ボール運動に取り組み、友情を深め心身を

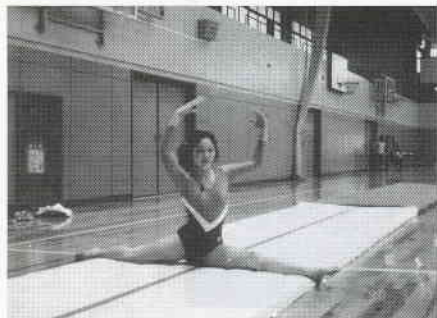
鍛えています。指導者も、毎週会合と講習会を重ねています。

また、体操連盟で講習会を行ない育てたバウンドテニスも、今は盛んになり各地区に小さな体育館がほしくらいです。

年間事業として

- ・連盟総会
- ・トランポリン教室
- ・ラジオ体操講習会
- ・体操・トランポリン教室
- ・市民体育祭
- ・講習会
- ・競技会

岩井徳十(会長)はじめ、沢田精一(体協理事)・浅野敏・森賢子・坂井宏行・坂井克好・川原雅代・代裕子・藤田早苗・萬辺久子・松本明子・篠崎貴子・坂根弘・清水健一・高橋奈美・関根真弓・奥山裕子・野沢順子・リーダー二十名と共に前進。



フアイト

マラソンクラブ スポーツ少年団

第七回埼玉県スポーツ少年団駅伝競走大会で優勝する

この大会は、団員に技術の向上と競技の歓びを経験する機会と、他市町村の団員との交流を深めるという目的で、毎年開催されています。

平成二年二月十一日、県内各市町村から選抜された少年団一〇チーム・一〇〇余名の団員(男子六十二チーム・女子四十八チーム)の参加のもと、朝霞市青葉台公園周回コース・十三・四キロを六名一チームで健脚を競いました。

川越から参加したフアイトマラソンクラブが、男子の部で初優勝を飾ることができました。記録は四十六分三十五秒で、全員が七分台で完走し、区間賞にも二名が入賞しました。

この大会で優勝したことにより、子供達は一つの大きな目標を達成することができ、一人一人がスポーツの素晴らしさをあじわうことができましたものと思います。

当クラブでは、県大会に出場する機会とは唯一この大会だけしかありませんので、喜びはひとしおです。子供達に夢と希望を与えてくれたこの大会に感謝しています。今後は、クラブの充実と青少年



の健全育成に向けて、指導者としてなお一層の努力をしていく考えでいます。

おわりに大会関係各位に厚くお礼申し上げます。

編集後記

「みるスポーツ」から「するスポーツ」へと一億総スポーツと言われる今日、本市においても幼児から高齢者まで幅広い年齢層の市民が、各種講習会や大会等に積極的にスポーツ・レクリエーションを楽しんでいる。

年々、高齢化・国際化 情報化等社会の変化に伴い、益々多様化していく市民のスポーツニーズに対して、我々体育関係者への期待と役割は益々大きくなるであろう。おわりに、ご多忙の中寄稿いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。